

和の光

宝塚市立西谷中学校



ある女子生徒の作文から進路を考える 「一番大切なこと」

2次方程式、それが私は嫌いだ。そして苦手だ。頑張っただけ好きになる。私、数学が少し好きになってきた。自分の力で問題が解けて、そして、友達から「どうして、それ解けたん」と聞かれたりしたら、もう最高って感じ。今までそれが感じられなかったけれど、今は感じられるようになってきた。

今習っているところは「証明」です。私の大嫌いなものです。けれど、**一生懸命考えて解きます。分からなかったら先生に聞きます。とことん分かろうとします。そして、その事が自分にとって身に付きます。**前は●●先生にすら聞けなくて、友達の答えを見るだけで自分から分かろうとしなかった私…。今、それが悔やまれてならない。恥ずかしい…。けれども、それが自分の学力なのだから、例え初歩的な内容のものが分からなくても先生に聞くべきだ。

自分の学力を恥ずかしがってはいけないと思う。そして、自分の学力を知っていなければいけないと思う。私は、もう一度自分の学力・性格・個性などを見直して、私は●●高校でいいのだろうか？と考えたい。今の私にはそれしかできない…。「私立高校専願？なんで…」とか「●●高校ってあほでも行けるのどこがう」とか「いいな～私立高校って」言われても私は別に気にしない。私の学力・性格・個性に合った高校だから。だから私は行く。絶対に行く。頑張る。意地でも行く。私は夢を貫く。●●高校に落ちても、私は夢があるから絶対に夢に向かって突っ走る。**「夢」それは私を勇気づけてくれて、そして励まし、頑張れるようにしてくれると思う。私は、今後この「夢」を大切にしていって、「夢」に一步一步着実に進んでいきたい。**

今よく、「あほな高校やからな、あそこは」なんて言葉を聞く。でも、あほな高校でも、自分の「夢」「希望」に向かって行く人の方が私は好きだ。それに、第一、高校にあほな高校、かしこい高校なんてないと思う。私は、見栄で高校に行き、「夢」や「希望」もないところで暮らせない。あほな高校と言われてもいい。馬鹿にされてもいいと思う。自分がそれでいいなら、●●高校はあほやから行きたくない、あそこはかしこいから行きたい…。なんか決めてもいい事なのか？私はそのことで悩んでいる。今、本当に何がどうなのか分からない。だから、初めから考え直したいと思っている。

今日、寂しいなと思った。それは、悪い高校に行くという事を友達に知られたら、その友達は自分から離れて行くのではないかという意見を読んだからです。どうして、自分の行こうと思う高校を自ら馬鹿にするのだろうか？自分がそれでいいと思ったら、人に馬鹿にされても関係ないと思う。もし、本当に友達が遠ざかって行ったのなら、それは本当の友達ではないと思う。私は、ほとんどの子に「私は●●高校の専願を目指している」と言っている。そして、みんなに自分の夢を聞いてもらった。「●●さんならいいね～。精神年齢がばれないから…」と馬鹿にされたけれど…。でも、その子は心から最後に「頑張れな」って言ってくれた。私が一番友達だと思っている子は、「本屋さんと、●●高校の入試問題を売っていたで、その中にあれが出てたで…」と教えてくれたり、**私の夢に対して積極的に力を貸してくれたりする。それが本当の友達だと思う。**

何かみんなの高校に対する気持ちとだいが異なっている。私の考えは間違っているのだろうか。全然分からない。でも、**私は「高校」について逃げないで考えて行きたいです。なぜなら、義務ではなくて自分の力で、何でもやっていかなければならないから…。**

上記の作文は、ある中学3年生の女子生徒が進路選択時の11月末頃に書いたものです。もう、何年も前のものですが、「自らの学力」「進路選択時の悩み」など素直な気持ちが綴られています。**私は、中学3年生を担当した時には必ずこの作文を紹介して、クラスの生徒たちから意見を聞いて、「共に励まし、支え合いながら進路を実現しよう」と呼びかけてきました。**下記に、私が担任していた生徒の感想を紹介します。

◆私も同じような考えだった。見栄だけで難しい高校に入っても、周りからは「すごいね」「かしこいね」とか言われるけれど、自分のやりたいことと合っていなかったら、無駄な3年間になると思うし、親にもそう言われた。**どこの高校に行っても、周りが遊んでいても、自分をしっかり持っていれば大丈夫だと思う。**クラスみんなが難しい（偏差値の高い）高校に行こうと焦っている。私は無理して行くつもりはないけれど、周りに流されることなく、自分の考えを持っていけばそれでいいと思っている。（女子の感想）

◆「夢」って大切だと思う。今、行きたい高校はあるけれど、別にその高校以外に進学しても、私がしたい仕事に就くことはできる。なので、**私は「夢」に支えられている状態。落ちてもいいや～って思えるのは、先にやりたいことが見つかっているから。どこの高校に進学することになっても、絶対に勉強したるって意識がある。**（女子の感想）

◆私は、この作文と同感だ。「あそこの高校は、馬鹿・不良が多い」とか言う残念な人がいる。要は、自分がそれに染まらなければいいこと。**周りのせいにするような人は、結局どこの高校に進学しても、自分が頑張らないことを他人の責任にするだけ。**（男子の感想）

さて、この作文・感想を通してみなさんは「進路」についてどのように感じましたか。3年生には、これから進路選択に向けた取り組みが進んでいきます。今一度、自分の現状や進路を見つめ直す機会をつくって欲しいと思います。

校長 筒井 啓介

■生徒会活動（専門委員会の様子）



評議委員会



健康委員会



生活委員会



学芸委員会



先生も生徒と話し合います



委員長と真剣に相談しています

7月1日の放課後に生徒会の専門委員会が開催されました。本校には4つの専門委員会（評議委員会・健康委員会・生活委員会・学芸委員会）があります。専門委員会は月初めに開催されます。それぞれの委員会で、「先月の反省」を行い、その反省を踏まえて、「今月の目標・活動」について話し合いが行われます。普段はなかなか、時間がとれず、今回初めてその様子を見学することができました。

他の学校と違い、全校生徒で44名しかいないため、限られた人数での活動になりますが、どの委員会も委員長を中心に積極的に議論が進められていました。また、「生徒朝礼」で全校生徒に対して各委員会からの報告や呼びかけも行われています。小さな学校でも、他の学校に負けることなく力を合わせて活動に取り組む姿勢に感心します。「それぞれが活躍できる 西谷中学校」を目指して、更にみんなの英知を結集していこう。

■図書室に足を運んでみよう（7月17日の様子）



新しい本の紹介(学芸委員会)



司書さんが貸出しをします



真剣に読んでいます

学芸委員会では、図書の貸出しを増やすために、廊下に「新しく入荷した本の紹介」を掲示したり、各学年からの「推し本コーナー」を設けたりするなど様々な工夫をしています。昼休みや放課後に図書室をのぞいて見ると、たくさんの生徒が図書室にきています。以前の学校通信にも書きましたが、心と身体が大きく成長するこの時期に読書を通して、様々な人の考え方を知ることができます。また、普段は簡単に体験できないことでも読書で疑似体験することもできます。一冊の本を手にとすることで、たくさんの効果が期待されます。

スマホやパソコンの普及で情報の入手手段が多様化し、中高生の読書離れの傾向が指摘されていますが、本を手にとって自分の手でページをめくりながら読み進める楽しさを感じて欲しいと願っています。



2・3年生がたくさん来ています